激励の千羽鶴へのお礼に 井上光さんが母校を訪問

8月8日、宮城県石巻市在住で東日本大震災で被災した小林市出身の井上光さん夫妻が、母校の小林小を訪問しました。同小の6年生が井上さんに励ましの千羽鶴や手紙などを送ったことがきっかけ。井上さんは「皆さんからの励ましに涙が出た。復興にどれくらい時間がかかるか分からないが、ぜひ東北に足を運んでほしい」とあいさつしました。

井上さんが石巻市で運営する介護施設の職員や利用者の感謝の言葉がつづられた色紙が児童へ手渡されました。

委員長には小林市中学校の教諭である井手口敏朗さんが就任。委員会では今後、歌の作成から活用方法まで検討していきます。

「市歌」で新市の一体感醸成とイメージアップを図る

8月3日、小林市市歌検討委員会が発足し、委員に委嘱状が交付されました。これは、市歌の制定により、小林市のさらなる一体感の醸成と市民のふるさと意識の高揚および本市のイメージアップを図ることが目的。公募4人を含む12人の委員により市民に愛される市歌の制定を目指します。

経験者から平和の尊さを学ぶ 西小林小学校で慰霊集会

8月8日、西小林小学校で慰霊集会が行われました。戦争体験者の白川節夫さんが、西小林駅前で児童が襲撃された状況を説明。講話後、運動場の慰霊碑前で献花し、6年生東玲奈さんが「戦争のない夢と希望があふれる未来をつくっていくために行動していきます」と誓いの言葉を述べました。

空襲の中、奇跡的に助かった妹の話などをした白川さん。入佐啓太くんが「戦争を知らないので勉強になりました」とお礼を述べました。

来年10月で開業100周年を迎えます。委員会では路線維持につながる取り組みや、観光列車の誘致等についても協議されます。

ＪＲ吉都線吉松・小林間が来年で100周年。記念行事の準備進む

8月4日、第1回小林市ＪＲ吉都線開業100周年記念事業準備検討委員会と委嘱状交付式が行われました。委嘱を受けたのは団体推薦9名と公募6名の15名。委員長の選任を受けた吉村秀昭さんは「吉都線を100年後の次世代に残せるよう、熱い気持ちで頑張る」と意気込みを語りました。

全国大会を前に三松小ハンドが表敬

7月22日、全国大会に出場する三松小ハンド部の選手ら12人が市長を表敬訪問しました。同部は6月に開催された県大会で見事優勝。主将の東園理子さんは「気を抜かず頑張りたい」と元気よく意気込みを語りました。

つかみどりに、大人も子どもも大興奮

7月24日、出の山淡水魚水族館で魚のつかみどり大会が開催されました。準備された魚は、マス・コイ・ウナギの約2500匹で、未就学児や小学生ら約400人が挑戦。会場では金魚すくいやザリガニの販売等も行われました。

小林中の選手が九州大会を前に抱負

8月1日、九州中学校体育大会に出場する小林中の陸上部（12人）、水泳部(1人)、柔道部(1人)、バスケ部（15人）の選手が出場を前に、抱負を語り、健闘を誓いました。

岩戸神社で荘厳な神楽

7月30日、堤にある岩戸神社で岩戸神楽が奉納されました。多くの観客が見守る中、三松保育園児がこども神楽を披露。その後、岩戸神楽保存会が「剣の舞」など3つの神楽を舞い、神社は荘厳な雰囲気に包まれました。

三松中ハンド部がアベックで全国に挑む

8月10日、全国大会に出場する三松中の男女ハンド部が市長を表敬訪問しました。同部は、福岡市で開催された九州大会で男子が準優勝、女子が3位入賞し、全国大会出場が決定。男子は5年連続7回目、女子は2年ぶり2回目の出場となります。

写真は元気よく宣誓した神之薗選手【右】と吉村選手【左】。この大会は今回で10回目。競技力の向上と選手の交流を図ります。

県内外から74チームが参加 南九州3県小学生バレー大会

8月6日と7日、南九州3県小学生バレーボール大会が開催されました。開会式では三松小男子バレー部の神之薗勇人選手と小林南少女バレー部の吉村優華選手が「交流を深め、思い出に残る大会にしたい」と宣誓。熱戦の結果、三松小男子バレー部と西小林少年バレーが3位入賞を果たしました。

新燃岳噴火に際し、マスクを寄贈したＪＡＬへ、児童がお礼の作文を送ったことがきっかけとなり、この企画が実施されました。

ＪＡＬが市内小学生を招待。航空会社の舞台裏を見学・体験

8月9日、市内小学生10人が羽田空港にあるＪＡＬ（日本航空株式会社）機体工場に招待されました。普段見ることのできない機体工場の見学や、客室乗務員の業務などを体験。参加した幸ヶ丘小6年峯田将希くんは「パイロットや客室乗務員の話、ミーティングの様子が見れて良かった」と話しました。